

Slovenia Monthly September 2019



スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2019年10月9日

～9月の主なポイント～

- 内政： プリッチ開発・戦略事業・結束担当大臣が辞任
- 外交： ブレッド戦略フォーラムの開催
シャレツ首相、ロシアを訪問
- 経済： アドリア航空が破産申請
マクロ経済分析発展研究所、スロベニアの経済成長予測を下方修正
- スポーツ： 男子バレーボール代表、欧州選手権で準優勝

政治

【内政】

●政府、EU議長国任期中の優先事項を決定【5日】

政府は、スロベニアの2021年後半のEU議長国就任に向け、議長国期間中の優先課題の第一案を採択した。マリイ首相府副大臣によると、スロベニア政府は3つの柱を優先課題に設定しており、1つ目の柱が、「隣国関係及び国際関係における良好なパートナーの保証人としての安全なEU」で、ここには西バルカン地域の経済発展及びEU統合も含まれる。2つ目の柱は「法の支配に基づくEU」で、法の支配の強化、司法の近代化や司法・警察当局間の協力促進等によるEUの基本的価値の強化等を目指す。3つ目の柱は「持続可能な開発に基づくEU」で、気候変動やエネルギー等の問題への対処が挙げられている。マリイ副大臣は、EU内の状況等も踏まえつつ、スロベニアが議長国に就任する2021年7月1日まで優先課題は随時改訂していく予定であると述べた。

●次期欧州委員、スロベニアのレナルチッチ候補は危機管理担当に【10日】

10日、フォン・デア・ライエン次期欧州委員長は、記者会見において各欧州委員候補の具体的所掌を発表し、スロベニアのレナルチッチ欧州委員候補は

危機管理担当に指名された。レナルチッチ候補は、指名を受け、「危機管理はEUの活動の中で重要な任務であり、人の生命を救助したり、支援が必要な人を手助けしたりする簡単ではない分野である。急激な気候変動や暴力を伴う紛争により、支援を必要としている人は増加している。(自分が)危機管理担当に指名されたのは、スロベニアが伝統的に人道援助及び市民保護を行ってきた結果である」とコメントした。シャレツ首相は、「危機管理担当業務には人道援助も含まれている。スロベニアは優れた救助・保護システムを有していることで知られており、他国もスロベニアの取組を学んでいる。レナルチッチ候補はこの分野で多大な貢献をすることができるだろう」と歓迎するコメントを発表した。

●プリッチ開発・戦略事業・結束担当大臣が辞任【20日】

20日、プリッチ開発・戦略事業・結束大臣は、大臣を辞任すると発表した。同大臣は、辞任の理由は個人的なものであると述べつつ、大臣任期中の業績を振り返り、「自分の最優先課題は、ITシステムの修復であった。ITシステムの不備により、スロベニアがEU基金からの資金引き出しができなくなる恐れがあったが、同システムを任期中に修復することができた。現在、ITシステムは機能しており、EU基金から正常に資金を引き出すことができるようになっている」と述べ

た。プリッチ大臣の辞任表明を受け、首相府は、シャレツ首相はプリッチ大臣の辞任の意向を尊重する旨のプレスリリースを発表した。



(Photo: Daniel Novakovič/STA)

●現代中央党(SMC)党大会、ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣が党首に就任【21日】

21日、現代中央党(SMC)の党大会が開催され、ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣が、満場一致で同党の新党首に選出された。同党の党首は、党設立以来、ツェラル現外相が務めていたが、ツェラル党首は、本年6月に党首再任を希望しない意向を明らかにしており、ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣が唯一の立候補者となっていた。なお、今回行われた党大会では、ポチヴァルシェク新党首の発案により、ツェラル前党首が党の名誉党首に選出された。



ポチヴァルシェク新党首
(Photo: www.sloveniatimes.com)

【外政】

●シャレツ首相、ロシアを訪問【10日】

シャレツ首相は、ロシアを訪問し、10日、メドヴェージェフ首相と会談を行った。会談における議題の中心は両国の経済関係に置かれ、メドヴェージェフ首相は、昨年の両国の貿易額は前年比9%増加しており、本年も同様の増加が期待されると述べた。シャレツ首相は、ロシアはスロベニアによる第5位の投資先であり、一層投資が活性化することが目標であると述べつつ、両国の経済関係がポジティブな傾向にあることを嬉しく思うと述べた。そのほか、スロベニアの大手小売企業「Mercator」の親会社であり財政難にあるクロアチ

アの「Agrokor」社が、現在ロシア貯蓄銀行(Sberbank)が最大の債権者である「Fortenova」社(クロアチア)へ優良資産を移行するプロセスにあることについて、メドヴェージェフ首相は、スロベニア政府は「Agrokor」社の再建をサポートすべきとの見解を示した。また、両首相は国際情勢についても意見交換を行い、シャレツ首相は、スロベニアはウクライナの領土一体性及び独立性及びミンスク合意の履行を支持していると述べたほか、ロシア・ウクライナ間での信頼構築が必要であるとして、先般のロシア・ウクライナ間での捕虜の交換を歓迎した。そのほか、両首相は、西バルカン情勢、シリアを中心とした中東情勢等についても意見交換を行った。



(Photo: スロベニア政府HP, Nebojša Tejić/STA)

●インド大統領のスロベニア訪問【16日】

インドのコヴィンド大統領がスロベニアを訪問し、パホル大統領と会談を行った。両大統領は、二国間関係及び国際場裡における協力を促進することで一致したほか、カシミール情勢に関する意見交換も行った。コヴィンド大統領は、テロは人類の最大の課題であり、全世界がテロ撲滅のために力を合わせる必要があると述べた。両大統領は、経済分野での協力促進を呼びかける声明に署名したほか、両国政府間でも、文化、芸術、教育、スポーツ及びメディアに関する協力事業、科学技術協力に関する協力事業等の文書に署名された。今般のコヴィンド大統領のスロベニア訪問にはビジネス代表団が同行しており、両大統領はスロベニア・インド・ビジネスフォーラムに出席した。また、滞在中、コヴィンド大統領は、シャレツ首相、ジダン国民議会議長とも会談を行った。

●キプロス国会議長のスロベニア訪問【17日、18日】

17日、ジダン国民議会議長は、スロベニアを訪問したシルリス・キプロス国会議長と会談し、EUにおける法の支配及び(EU内の)二極化への対応等に関する小国間の協力を中心に意見交換を行った。ジダン議長は、スロベニアとキプロスは共に小国として、EUの

原則である法の支配及び平等な対応を要求していると述べ、小国同士がより協力を促進する枠組みの構築に向けて協議したと述べた。シルリス議長は、法の支配及び平等な対応に加え、気候変動、貿易戦争への対応等の国際的課題を含む目標を設定すると述べた。シルリス議長は、滞在中、パホル大統領、シャレツ首相、ツェラル外相とも会談を行った。

●パホル大統領、スイスを訪問【18日、19日】

パホル大統領は、スイスを訪問し、マウラー大統領と会談した。両大統領は、良好な二国間関係を確認し、また、パホル大統領は、両国館で定期的に政治対話が行われていることや、2018年の貿易額が前年比50%増となっていることを評価した。この他、パホル大統領はグセティ国民議会議長とも会談し、英国のEU離脱、EU拡大、移民問題等について意見交換を行った。さらに同大統領は、チューリッヒにおいて開催されたスロベニア・スイス・ビジネス会合に出席した。なお、今回のパホル大統領のスイス訪問には、ピカロ副首相兼教育・科学・スポーツ大臣、ボジッチ外務副大臣、ポドロガル経済開発・技術副大臣等が同行した。



(Photo: 大統領府HP, Daniel Novakovič/STA)

●シャレツ首相、クロアチアのシェンゲン加盟の可能性について発言【26日】

シャレツ首相は、滞在先のニューヨークにおいて、本年10月に欧州委員会がクロアチアのシェンゲン加盟に肯定的見解を出す可能性があるとの報道が出たことについて、記者団に対してコメントした。シャレツ首相は、「欧州委員会が政治的な決定を下すのであれば、スロベニアも同様に政治的に行動することになる。スロベニアは特に安全面において懸念を有しているほか、現在の欧州委員会の任期が終了する直前の時期に本件がアジェンダに載ることは軽率に思える」と述べたほか、「スロベニアは、シェンゲン国境を有することが多大な労力を強いていることを知っているが、隣国が(近隣の)どの国とも国境問題を解決していないことを懸念している。この問題を棚上げしているのに、シェンゲン圏に加盟する条件を満たしているとどうして言えるのであろうか」と述べた。また、

記者団より、クロアチアのシェンゲン加盟に対してスロベニアは拒否権を行使するつもりかと問われ、シャレツ首相は直接質問には答えず、「スロベニアは国益のみならず法の支配の尊重のためにも、その都度、正しい行動をとるつもりである」と述べた。

●シャレツ首相、国連総会で演説【27日】

シャレツ首相は、ニューヨークで開催された国連総会において一般討論演説を行った。シャレツ首相は、世界秩序が変容しつつあり、国際機関もパラダイム調整を試みているが、約75年間我々を導いてきた基本原則を忘れてはならないと述べ、多国間主義、国際法の遵守、人権の尊重を強く訴え、移民問題への責任ある対応、西バルカン諸国のEU加盟努力の後押し、国際法に基づいた紛争解決等をスロベニアの優先課題として挙げた。また、シャレツ首相は、残虐行為が発生した際の国連安保理における拒否権発動の自粛を呼びかけたほか、気候変動については、「パリ協定から逸脱しないことが子供達に対する義務である」と述べ、持続可能なグリーンな経済への転換は、スロベニアの戦略的優先課題であると強調した。最後に、同首相は、スロベニアが人々を繋げ、生産性を高め、生活の質の向上に貢献するものとして先端技術の役割を重視していることを強調し、UNESCOの協力も得て、欧州における初のAI研究センターをスロベニアに設置することを提案した。



(Photo: Tamino Petelinšek/TA)

第14回ブレッド戦略フォーラム (Bled Strategic Forum) の開催

9月2日～3日、ブレッド市において、「(不)安定の(資)源-(Re)sources of (In)stability」とのテーマの下、第14回ブレッド戦略フォーラム(BSF)が開催され、吉田大使が出席しました。



開会式の様子

1日目は、開会式に続いて、主賓であるカリユライド・エストニア大統領とパホル大統領との対話、トルコ外相、ツェラル外相等による「多国間主義の岐路」セッション等、2日目は、「NATOの今後」、「新しい欧州委には何が待ち受けているか」、「ルールに基づいた国際秩序か地政学への回帰か」、「西バルカン-欧州化、民主化、共通の義務」等を含む計20件のセッションが開催され、活発な議論が展開されました。また、同時期に開催されたビジネスBSF及びヤングBSFにおいては、気候変動とスマート経済、技術革新とAI、地中海地域における協力等に関する6つのセッションが開催されました。

同フォーラムには、スロベニアから大統領、首相、外相、国防相等関係閣僚、また、外国からはエストニア大統領、11カ国から外相(トルコ、スペイン、マルタ、フィンランド、ハンガリー、クロアチア、セルビア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、モンテネグロ、マケドニア、コソボ)、エスピノサ国連総会議長、バチュレ国連人権高等弁務官等をはじめとする各国政府・機関代表らが登壇しました。また、経済分野では、ジェフリー・サックス教授、米国からは西バルカンのセッションに国務次官補代理(欧州・ユーラシア担当)が登壇し、フォーラム全体としては、約60か国から1000名ほどの参加がありました。



大統領セッション



シャレツ首相の開会挨拶

開会式において、シャレツ首相は開会挨拶を行い、世界的な課題への対応のため統一された協調的なアプローチが求められており、また、特に気候変動、水及び食糧の安全保障については、科学的根拠に基づいた早急なアクションを取るべきであると呼びかけました。また、同首相は、強靱であり結束した欧州、人権と人間の尊厳の尊重等の重要性について強調しました。

続いて、ツェラル外相がスピーチを行い、持続可能な開発の重要性と緊急性を訴えるとともに、西バルカン諸国のEU加盟努力に対する支援の重要性を強調したほか、移民問題にも触れ、多国間主義が危機に瀕している中、国境管理を含め、国際社会が直面する課題に対して国際基準に基づいた共通の解決策が不可欠であると強調しました。開会式では、エスピノサ国連総会議長もスピーチを行い、気候変動対策は国際社会が直面する最重要課題であると訴えました。



西バルカンセッション

【ブレッド戦略フォーラムとは】

2006年より毎年9月初旬にブレッド湖畔の会議場において、欧州、中東、アジア等から首脳、閣僚、政府高官、有識者、ビジネス関係者等を招き、その年のテーマに基づき議論の場を提供しているフォーラム。近年は、毎回1000名以上の参加者を得ており、中東欧地域では注目度も高く、影響力のあるフォーラム。

(写真:ブレッド戦略フォーラムホームページより)

HP: www.bledstrategicforum.org

経済

【経済一般、指標・統計】

●マクロ経済分析発展研究所、スロベニアの経済成長予測を下方修正【10日】

マクロ経済分析発展研究所(IMAD)は、秋季経済成長予測を発表し、スロベニアの本年の経済成長予測をこれまでの3.4%から2.8%に、来年の予測を3.1%から3.0%に下方修正した。IMADのベドナシュ所長は、下方修正の理由として、ドイツをはじめとしたスロベニアの主要な貿易相手国経済の減速を挙げ、見通しは本年春の予測発表時よりも悪化していると述べた。この下方修正を受け、ベルトンツェル財務大臣は、スロベニアの本年の成長予測が2.8%に下方修正されたが、それでもユーロゾーンの平均成長率を大幅に上回っている旨を指摘しつつ、政府は2019年の補正予算を春季の予測を基に準備していたため、各省庁には予算節約と必須ではない措置の取りやめを呼びかけたと述べたほか、2020年及び2021年の予算案については予測の下方修正を受けて歳出を更に削る方向で調整すると述べた。

●経済自由度ランキング、スロベニアは67位【12日】

カナダのシンクタンクであるフレーザー研究所がまとめた世界経済自由度報告書が発表され、スロベニアは7.15ポイント(最高は10)で、対象162か国中全体で67位となり、前年と順位の変動はなかった。個別項目では、スロベニアは「政府の規模(Size of Government)」で144位、「規制(Regulation)」で88位であったものの、「法制度・財産権(Legal System and Property Rights)」で38位と高評価を得たほか、「通貨の安定性(Sound Money)」で44位、「国際的な貿易の自由性(Freedom to Trade Internationally)」で44位であった。なお、全体ランキングの一位は、8.91ポイントを獲得した香港で、シンガポール、ニュージーランド、スイス、米国が続いており、日本は7.86ポイントでルクセンブルクと並び17位であった。

●デジタル競争力ランキング、スロベニアは32位

スイスに拠点を置くビジネススクールのIMDは、世界デジタル競争力ランキングを発表し、スロベニアは対象63か国中、前年より2つ順位を上げて32位となった。同ランキングは、知識(Knowledge)、技術(Technology)、将来に向けた準備(Future Readiness)の3項目のポイントを基に算出されるもので、スロベニアは項目別では知識が27位、技術が35位、将来に向けた準備が36位であった。IMDのスロベニアにおけるパートナーである経済研究所は、プレスリリースにおいて、「R&D部門への投資の減少や会社の革新性の低下にもかかわらず、スロベニアが順位を

2つ上げたのは、新技術の使用率の増加、デジタル化への理解の深化、ロボット化、一部のICT輸出企業の成功等が理由として考えられる」との見解を発表した。なお、全体ランキングのトップ5は上位から米国、シンガポール、スウェーデン、デンマーク、スイスで、日本は23位であった。

【企業、産業の動向】

●レク社、新工場での生産拡張計画を取りやめ【2日】

製薬大手ノバルティスの子会社であるレク社(Lek)は、国内北部プレヴァリエの新工場での生産拡張計画を断念する旨を発表した。プレヴァリエの抗生物質生産拡張のための新工場の建物は、2018年末に完成済みで、2020年からの稼働を予定していた。今後の同工場の処遇については未定となっている。本件に関し、レク社は、プレスリリースにおいて、計画断念の理由として、ジェネリック医薬品市場における需要の低下及び新技術の導入の必要性等を挙げた。なお、同新工場建設投資計画については、スロベニア政府が700万ユーロの補助金を承認し、レク社はすでにその内の150万ユーロを受け取っていたが、受領分を返金する予定。

3日、経済開発・技術省は本件に関し、各企業は市場動向に合わせる必要があるため、レク社の決定を理解する旨コメントを発表した。また、ポチヴァルシエク経済開発・技術大臣は、報道陣の質問に応え、本決定は残念であるが、レク社が建設した工場については、購入に関心を示している投資家がいると述べたが、現段階で具体的な投資家名等については言及は避けた。



(Photo: Vesna Pušnik Brezovnik/STA)

●アドリア航空が破産申請【30日】

30日、アドリア航空はクラン地方裁判所に破産申請を行った旨及び破産申請を行ったことにより予定されていた全フライトを欠航する旨を発表した。

アドリア航空は、経営難により9月23日よりリュブリャナ・フランクフルト便を除くフライトを欠航しており、25日に行われた航空局とアドリア航空経営陣との会談後の記者会見において、マロルト航空局長は、「アドリア航空は署名された航空機リース契約及び航空

事業運送許可(AOC)等で裏付けされた財政再建計画を10月2日までに提出する必要がある。もし計画が提出されない場合は、商用機を運行することはできず、仮に提出した場合でも、航空局はアドリア航空が事業ライセンスを維持するにあたり、提出された財政再建計画が十分な根拠を有しているかにつき早急に決定を下す予定である」と述べ、アドリア航空が資金難を解決できない場合には、事業ライセンスを没収する可能性について示唆していた。

また、30日のアドリア航空の破産申請に先立つ同日午前には、ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣が記者会見を開き、「スロベニアの代表的航空会社であるアドリア航空は、スロベニアの経済及び観光にとり非常に重要であり、政府としても現在の同社の窮状に無関心というわけではないが、過去に政府は資金を注入している経緯があり、また、同社が現在は民間所有の会社であるということから、政府が行える対応策は限られている。また、政府は、現在のオーナー(ドイツの事業再生ファンドである「4K Invest」社)の下では、アドリア航空に一銭も支援を行うつもりはない。なぜならこの方法では、政府が多額の負債を肩代わりし、現在のオーナーが責任を逃れることになるからであり、それは国民そして政府予算に対して無責任であると言える」と述べつつ、「従って、起こりえる唯一のシナリオはアドリア航空の破産(receivership)であり、その後2つのシナリオが考えられる。1つ目は、市場そして需要・供給の原則に任せるやり方であるが、これはかなりの時間を要し、また、(市場原理に任せられた場合に構築される)フライトの接続が必ずしもスロベニア経済の利益になるという保証もない。2つ目のシナリオは、政府が新会社を設立することである。この方法であれば、極めて重要な路線の確保がより容易であり、現在、スロベニア政府はこの可能性につき精査している。近々、政府は決定を下す予定であるが、実際に新会社を設立するとなると必要な許可証を取得するのに3~6か月の時間を要し、理想的な展開になればよりその期間は短くなる可能性はあるが、それにはルフトハンザとの確固たる合意が必要不可欠である」と述べ、政府がアドリア航空を救済する可能性を否定していた。



(Photo: Nebojša Tejić/STA)

軍事・治安情勢・危険情報

●スロベニア、合同国境パトロールをオーストリアに提案【13日】

ポクルカル内務大臣は、スロベニアを訪問したペション・オーストリア内務大臣と会談を行い、両国の警察当局がスロベニア・オーストリア間国境において合同パトロールを実施することを提案した。ポクルカル大臣は、オーストリアによるスロベニアとの国境における国境検査は、両国の近隣住民に経済的な悪影響を与えており、また、長い車両の列ができていた旨を指摘し、オーストリアが国境検査を廃止する代替案として合同パトロールを提案したと述べた。ペション大臣は、スロベニア側の提案は良い提案であると述べつつ、オーストリア政府は、合同パトロールにより移民の流入を完全に防げるかにつき精査すると述べた。

●NATO軍事委員会の開催【13日、14日】

13日から14日の2日間にわたり、リュブリャナにおいてNATO軍事委員会が開催され、NATO加盟国の軍幹部を含む約400名が出席した。共同議長は、ピーチNATO軍事委員会委員長及びエルメンツ・スロベニア軍参謀総長が務めた。同委員会においては、NATOのオペレーションや戦略について協議され、記者会見に臨んだピーチ委員長は、現在実施中のミッションへのコミットメントを再確認し、特にアフガニスタンにおける「確固たる支援任務(RSM-Resolute Support Mission)」を継続することにより、アフガニスタン軍の強化及び平和に向けた取組を支援する旨強調した。また、エリヤヴェツ国防大臣は、スロベニア軍の6%の兵士が各地でNATOミッションに参加していると述べたほか、地域にとって重要な西バルカン諸国の平和と安定のため、NATO拡大を引き続き後押ししていくと述べた。

●8月の移民による不法越境件数、移民・難民危機以降の月別で最高値を記録【17日】

警察当局が発表した統計によると、本年8月に確認された移民による不法越境件数は2352件で、2015~16年の移民・難民危機以降で最も多かったことが判明した。また、本年1月~8月の不法越境件数は、9801件で、昨年の5899件をすでに超えており、パキスタン(2344件)、アルジェリア(1427件)、アフガニスタン(1064件)国籍者が大部分を占めている。また、本年1月~8月の難民申請件数も2577件で、昨年の数をすでに500件上回っている。

スロベニア男子バレーボール代表 欧州選手権で準優勝！

9月12日から29日の期間、フランス、ベルギー、スロベニア、オランダの共催で開催された男子バレーボール欧州選手権において、スロベニア男子代表チームが準優勝しました。



(Photo: Anže Malovrh /STA)

スロベニア代表は、ロシア、トルコ、フィンランド、北マケドニア、ベラルーシと同組となった予選グループC組において、北マケドニアとロシアに敗戦しましたが、3勝2敗の勝ち点9でC組2位となり、予選グループを突破しました。

準々決勝進出をかけた決勝トーナメント1回戦において、スロベニアは予選A組3位のブルガリアと対戦し、見事セットカウント3-1で勝利し、また、準々決勝では、予選グループで敗れているロシアにセットカウント3-1で雪辱を果たし、準決勝に進出しました。

準決勝では、予選D組1位通過を果たし、決勝トーナメントでもスペイン、ドイツを下して勝ち上がってきたこれまで全勝のポーランドと対戦し、セットカウント3-1で勝利して見事決勝進出を果たしました。

フランスに会場を移した9月29日の決勝では、スロベニアは強豪セルビアと対戦し、第1セットを先取したものの、続く3セットを奪われ、セットカウント1-3で敗れ、惜しくも初優勝を逃しました。なお、セルビアは本年8月に開催された女子欧州選手権でも優勝しており、男女でのアベック優勝となりました。



(Photo: Anže Malovrh /STA)

社会・文化・スポーツ

●旅行・観光競争力ランキング、スロベニアは36位【4日】

世界経済フォーラム(WEC)が隔年で実施する世界旅行・観光競争力調査の結果が発表され、スロベニアは前回より5つ順位を上げ、140か国中36位に入った。この調査結果は、環境、観光政策、インフラ、自然・文化資源の4つカテゴリーにおける計14項目を基に算出されるもので、スロベニアは4.3ポイントを獲得した(最高は7ポイント)。調査結果の発表を受け、ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣は、この結果はスロベニアが正しい道歩んでいることを証明していると述べた。なお、ランキング1位はスペインで、2位はフランス、3位はドイツとなり、続いて4位に日本、5位に米国との結果となった。

●スロベニアの教育への支出割合、OECD平均を下回る【10日】

OECDは、「Education at a Glance」と題した報告書を発表した。同報告書によると、2016年におけるスロベニアの教育関連の支出はGDPの4.3%で、OECDの平均値を1.7%下回っていることが明らかになった。また、大学入学後1年以内に中退する学生の割合は12%で、この数字はOECD平均より高いものであったほか、スロベニアの小学校ではOECD諸国よりも必修の授業時間は少なく、児童がより選択授業や課外活動に時間を使える環境にあることが明らかになった。

●カヌースラローム世界選手権、スロベニア勢がメダル獲得【28日】

スペインのラ・セウ・ドウルジェイで開催されたIFCカヌースラローム世界選手権において、28日、スロベニアのエヴァ・テルチェリ選手(Eva Terčelj)が、女子カヤック競技で金メダルを獲得した。また、同大会では、スロベニア・カヤック代表チームが金メダル、ルカ・ボジッチ選手(Luka Božič)が銅メダルを獲得しており、テルチェリ選手の金メダルにより、同大会のスロベニアの獲得メダル数は3となった。

スロベニア紀行

Vol. 15 2019/10/4

ドベルダン（スロベニア語で「こんにちは」）！

現在、今年最後のスロベニアでのレース SmarnaGora Mountain Race を控え、準備をしているのですが、つい先日、驚きのニュースが飛び込んできました。なんと、9/30 でスロベニアのナショナルエアーである「アドリア航空」が倒産。それに伴い、僕のリュブリャナ空港へのフライトチケットも自動でキャンセルされてしまいました。



まさか、こんな事があるなんて！ 思いもよらなかった事態ですが、ヨーロッパは陸で繋がっていますので気を取り直して、色々なアクセス方法を検索。代替案として見つけたのがミュンヘンからリュブリャナ間を走る夜行列車の「ユーロナイト」の寝台と座席で、往路は寝台室が取れましたが復路は満席でいわゆる1部屋に6人がけの座席となりました。

ちょっとハードな行程になってしまいましたが、どうにかアクセスのめどもついたので気を取り直して、今回のトラブルも力に変えて旅を楽しんでレースも精一杯頑張ってきます。また、ユーロナイトについては次号でどんな乗り心地だったかなどをお伝えしたいと考えています。夜行列車に乗る事自体が、結果としては普段ならできない経験をする機会を得られたわけですし！

なお、倒産したアドリア航空ですが、しばらく時間はかかるものの同じスターアライアンスグループのルフトハンザ航空が代替便を飛ばすなどの対応を検討しているようです。みなさんご安心を。

今回は少し短いですが、次号もお楽しみに！ それでは行ってきます！！

宮地藤雄(ミヤチフジオ)

2013～2018 マウンテンランニング日本代表

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282, Fax: +386-1-251-1822, Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧ください。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご活用下さい。

●スリに注意

リュブリャナ中心部等において、スリや置き引きの被害が発生しています。被害場所が多いのは、三本橋、青空マーケット、リュブリャナ駅周辺、レストラン内(宿泊ホテルのレストランを含む)などです。また、最近では、ブレッド湖など郊外の観光地でもスリや置き引き被害が増加しています。人混みの中では荷物を体の前で持つなどご注意ください。

●国境を越えて旅行する場合は、旅券を携帯してください。

シェンゲン協定参加国間の移動では、空港や国境での出入国審査が廃止されているために、事実上日本人も旅券の審査なく他国へ入国できますが、旅券を携帯していなかったことから罰金も科された事例もありますので、国境を越えて旅行する場合、必ず旅券を携帯して下さい。

【広報文化班からのお知らせ】

●日本映画週間 2019 開催！

今年も映画の季節がやってきました！日本映画4本の上映を開催いたします。

日程: 10月21日～25日(23日水曜日を除く)17時から

場所: キノ・ベジグラッド Kino Bežigrad (Linhartova cesta 11, 1000 Ljubljana)

上映予定作品: 勝手にふるえてろ! (21日), DESTINY 鎌倉ものがたり(22日), モリのいる場所(24日), ミックス。(25日)

●三味線公演, 開催予定!

アメリカ在住で世界を舞台に活躍している三味線奏者, 金子純江氏による公演を行います。

日時: 11月9日(土)17時開始予定

場所などの詳細は随時, 当館フェイスブック, ホームページに掲載いたしますので, 要チェック!

●最新情報は, 当館フェイスブックでチェック!

<https://www.facebook.com/Ambassy.of.Japan.in.Slovenia/>